

## 実体経済の動向

### ◇生産、出荷とも減少、在庫は前月減少のあと横ばい

(生産—減少)

5月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比<sup>(注)</sup>、速報)は、-1.6%と前月小幅増加(+0.3%)のあと、減少した(前年同月比-0.2%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

5月の動きを財別にみると、一般資本財が前月に引続き増加したほかは各財とも軒並み減少した。一般資本財の増加は金属加工機械、電子計算機、一部の民間建築、公共土木工事関連機器(クレーン、ベルトコンベヤ、ポンプ、圧縮機・送風機、エレベータ)等の増加によるもの。一方、生産財は、石油製品、合繊原料が前月増加の反動もあってかなりの減少を示したほか、紡績、上質紙、有機薬品、プラスチック等もメーカーの生産抑制を映じ、減少したため、全体でもかなりの減少となった。建設財は、土石製品(コンクリート

パイル等)、スチールシャッター、小形棒鋼が前月に引続き増加したものの、銅電線、その他の形鋼、板ガラス等の減少が響き、前月増加のあと再び減少した。また、耐久消費財は、物品税引上げ前の駆込み需要の反動による乗用車の減少や天候不順による民生用電気機械(エアコン、洗たく機、冷蔵庫)の落込みから、また非耐久消費財も、天候不順の影響を受けた飲料、ニット、繊維二次製品の減少を主因に、いずれも減少した。さらに、資本財輸送機械も、小型自動車、トラックの物品税引上げ前の駆込み需要の反動や輸出減を映じ、減少した。

(出荷—大幅減少)

5月の出荷(速報)は、-3.0%と前月かなり増加のあと大幅減少となった(前年同月比-0.9%)が、これには月末が日曜日であったことも一部影響している。財別には、一般資本財を除き、各財とも軒並み減少した。

まず、生産財は、標準モーター、亜鉛、板紙等に流通・ユーザー筋の在庫調整進捗を映じた出荷増の動きがみられたものの、石油製品(値上げ見越しの仮需の反動)、合繊原料(カプロラクタム等)、紡績、上質紙、有機薬品、プラスチック等

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	55年				56年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱 指 数	143.3	140.5	142.6	145.0	144.6	145.0	142.7
工 前期(月)比	0.2	2.0	1.5	1.7	-0.7	0.3	-1.6
業 前年同期(月)比	9.1	4.6	3.4	1.4	1.3	0.3	-0.2
投 資 財	1.4	1.2	0.1	1.0	-1.7	0.2	1.1
資 本 財	2.7	1.5	1.4	0.6	-2.1	0.5	2.3
同 (輸送機械を除く)	2.9	1.4	2.0	1.9	-2.4	0.2	4.9
輸 送 機 械	3.9	0.6	2.0	5.0	-1.5	4.6	7.4
建 設 財	-1.5	7.7	3.4	3.3	-2.6	2.9	-2.7
消 費 財	0.0	0.8	4.6	5.3	-0.2	-0.6	-1.8
耐 久 消 費 財	3.0	3.8	6.0	8.1	1.8	-0.7	-2.2
非 耐 久 消 費 財	-2.4	1.5	2.3	2.4	-0.7	-0.7	-1.6
生 産 財	-0.1	4.2	0.7	0.8	-0.7	1.3	-3.5

(注) 通産省調べ。56年5月は速報。前年同期(月)比は原指数による。

### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	55年				56年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱 指 数	138.1	133.8	136.6	138.6	137.2	140.1	135.9
工 前期(月)比	-0.4	3.1	2.1	1.5	-1.4	2.1	-3.0
業 前年同期(月)比	6.6	2.1	1.1	-0.1	0.2	-0.5	-0.9
投 資 財	0.9	1.0	-0.9	-0.1	-2.5	2.9	-1.0
資 本 財	3.4	1.7	0.3	0.0	-3.8	4.6	-0.5
同 (輸送機械を除く)	2.4	2.3	2.0	-1.6	-4.1	4.9	1.0
輸 送 機 械	6.2	2.1	4.4	2.1	-3.8	6.7	5.1
建 設 財	-3.9	6.0	2.8	2.9	-2.0	1.7	-2.2
消 費 財	-0.4	1.0	5.1	5.2	0.0	0.6	-5.5
耐 久 消 費 財	3.6	0.5	8.6	8.0	-0.9	1.9	-6.6
非 耐 久 消 費 財	-4.0	1.3	2.9	1.8	0.2	0.4	-4.5
生 産 財	-1.5	5.3	2.2	0.4	-1.5	2.5	-3.8

(注) 通産省調べ。56年5月は速報。前年同期(月)比は原指数による。

が、かなりの減少となったほか、自動車関連品(自動車用鉛電池、ダイカスト)も減少したため、全体では前月増加のあとかなり減少となった。建設財は公共工事関連の土石製品(コンクリートパイプ、ヒューム管等)や民間建築関連のスチールシャッターの出荷が増加したものの、棒鋼、アルミサッシ、ドア、銅電線、板ガラス等が前月増加の反動もあって減少したため、全体でもかなりの減少となった。また、耐久消費財は、乗用車が物品税引上げ前の仮需の反動から、また夏物家電製品(エアコン、扇風機、冷蔵庫)も冷夏懸念から、各々減少したため、全体でも大幅な減少となったほか、非耐久消費財も、夏物関連の飲料、ニットおよび繊維二次製品の減少を主因に減少した。さらに、資本財輸送機械は小型自動車やトラックが物品税引上げ前の駆込み需要の反動や輸出減からかなりの減少となったほか、船舶も前月に引続き減少したため、全体でも大幅な減少となった。

この間、一般資本財は電力投資関連等が、反動減となったものの、オフィスオートメーション関連機器が増勢を続けたほか、一部の公共工事関連機器(ポンプ、圧縮・送風機、ベルトコンベヤ)、民間建築関連機器(クレーン、エレベータ)も増加したため、全体でも前月に引続き増加した。

#### (在庫——横ばい)

5月の在庫(速報)は前月減少のあと横ばいとなった(前年同月比+6.2%)。この間、在庫率指数(50年=100)は、出荷の大幅減少が響き93.9と前月低下のあとかなりの上昇となった。

財別にみると、耐久消費財が二輪自動車や電気冷蔵庫を中心に、また非耐久消費財も時計、飲料、揮発油等を中心にいずれも増加したほか、一般資本財も金属加工機械、産業用電気機械等の増加を主因に増加したが、反面生産財、資本財輸送機械は減少し、建設財も横ばいとどまった。

在庫減少財のうち生産財は、石油製品(揮発油、A重油等)、アルミ地金、織物等で増加を続ける品目もみられたが、減産継続(紡績、合織原料<テレフタル酸等>、上質紙、塗工紙、パルプ、

### 鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	55年 (期末)				56年 (期末)		
	6月	9月	12月	3月	3月	4月	5月
鉱工業	110.4	114.0	114.4	116.0	116.0	115.7	115.7
前期(月)末比	2.9	3.3	0.4	1.4	1.6	-0.3	0.0
前年同期(月)末比	9.3	10.7	8.5	8.1	8.1	9.2	6.2
投資財	7.6	4.5	1.9	0.4	0.4	-0.5	-0.3
資本財	5.9	6.4	1.9	1.8	1.5	-0.9	-0.2
同(輸送機械を除く)	7.6	7.3	1.4	-0.1	0.9	1.6	0.7
輸送機械	2.7	4.3	3.0	5.8	2.8	-4.6	-2.1
建設財	9.6	2.4	-0.1	0.4	-0.6	-1.1	0.0
消費財	-1.2	2.1	-1.5	0.5	1.1	-0.6	1.8
耐久消費財	-0.1	11.3	-1.3	-6.6	-0.9	-1.3	2.3
非耐久消費財	-3.2	-5.1	-3.1	9.1	4.1	0.1	0.7
生産財	4.6	3.4	0.5	2.6	2.4	0.0	-0.6

(注) 通産省調べ。56年5月は速報。  
前年同期(月)末比は原指数による。

有機薬品<エチレン等>、プラスチック<塩ビ樹脂等>)や流通・ユーザー段階の在庫調整進捗を映じた出荷増(標準モーター、その他の形鋼、特殊鋼熱間鋼管、板紙等)から減少した品目が多く、全体でも前月横ばいのあと減少した。また、建設財はH形鋼、アルミサッシ、ドアが前月減少の反動もあって増加したものの、小形棒鋼、その他の形鋼、銅電線等が減少したため、前月減少のあと横ばいとどまった。一方、資本財輸送機械はバス、トラック等の減少から、前月に引続きかなりの減少となった。

(民間設備投資——機械受注は減少、一般資本財出荷、建設工事受注は増加)

5月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は、-8.1%と前月(-3.0%)に引続き減少した(前年同月比-4.8%)。業種別にみると、非製造業からの受注は、+0.2%と前月減少のあとほぼ横ばいとどまったが、製造業からの受注は、自動車、鉄鋼、石油、化学等が軒並み減少したため、-10.2%と前2か月増加の反動もあって減少した。

一方、5月の建設工事受注(民間分、速報)は+10.0%と3か月連続の増加を示した(前月+5.9%)。

## 需要別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	55年			56年		
	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
民需	5,525 (-10.0)	7,514 (36.0)	5,890 (-21.6)	6,188 (9.6)	5,848 (-5.5)	5,836 (-0.2)
同(船舶・電力を除く)	4,372 (-4.8)	4,886 (11.8)	4,431 (-9.3)	4,842 (14.5)	4,697 (-3.0)	4,318 (-8.1)
製造業	2,229 (-15.3)	2,659 (19.3)	2,432 (-8.5)	2,554 (9.0)	2,705 (5.9)	2,428 (-10.2)
非製造業	3,338 (-4.4)	4,618 (38.3)	3,515 (-23.9)	3,798 (14.4)	3,305 (-13.0)	3,218 (-2.6)
同(船舶・電力を除く)	2,138 (7.3)	2,305 (7.8)	2,025 (-12.1)	2,306 (20.1)	1,922 (-16.6)	1,926 (0.2)
建設工事受注(民間)	3,935 (-4.9)	4,125 (4.8)	4,317 (4.6)	4,436 (12.2)	4,698 (5.9)	5,170 (10.0)

(注) 機械受注は 経済企画庁調べ。建設工事受注は 建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(一)率(%)。

また、5月の一般資本財出荷は+1.0%と前月(+4.9%)に引続き増加となった。品目別には電力投資関連(発電機、電力・通信ケーブル)や農業用機械、建設用機械が前月大幅増加のあと反動減となったものの、オフィスオートメーション関連機器(事務用機器、電子計算機)が増勢を続けたほか、特殊産業機械、化学機械、一部の公共工事関連機器(ポンプ、圧縮・送風機、ベルトコンベヤ)、民間建築関連機器(クレーン、エレベータ)も増加した。

## ◇小売商況——天候不順から6月はやや伸び悩み

5月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比、速報)は、+8.4%(前月+7.6%)と引続き伸びを高めた。品目別には、食料品や雑貨(スポーツ用品等)が高い伸びを示したほか、衣料品(紳士服等)、身の回り品、家庭用品もいずれも伸びを高めた。もっとも、6月は天候不順の影響から夏物商品を中心に売上げはやや伸び悩んだ模様である。

6月の主要耐久消費財の販売状況を見ると、乗用車新車登録台数(軽を除く)は、前年比-6.7%(前月-16.6%)と物品税引上げ(5月1日実施)前の駆込み需要の反動が尾を引き、引続き前年水準割れとなった。

また、家電製品販売は、VTR、音響製品(ラジカセ、小型ステレオテーププレーヤー)、衣類乾燥機は、まず順調な売行きを示したが、夏物商品のエアコン、扇風機は天候不順から大きく落込んだほか、冷蔵庫、洗濯機も低調を続けるなど、総じて伸び悩んだ。

## ◇商況の基調——上伸一服ながら底固い動き

6月の商品市況は、石油製品(C重油、灯油)や建材品(生コン、合板)、板紙等が軟化したほか、冷延薄板も天候不順による夏物家電の不振等を映じて上昇一服となるなど、前月に続き回復歩調は一服の貌。もっとも、こうした中において、条鋼類、合織(ポリエステル糸)、そ毛糸、亜鉛、上質紙は、メーカーの生産抑制維持のほか輸出増や学校・病院建設等官公需の増加もあって上昇し、またこれまで軟調を続けてきた塩ビ樹脂も、不況カルテルの効果顕現などから、反発に転ずるなど、全体としては底固い地合いを保っている。

## (卸売物価——0.4%の上昇)

6月の卸売物価は、前月比+0.4%と3か月連続の上昇となった(前年同月比+1.1%)。品目別にみると、国内品は、木材、紙・パ等の市況商品が小幅下落となったものの、電力、一般産業向けC重油の値上げ交渉決着(5/4~6.月分)や食料品の値上りから+0.1%の微騰となった。一方、輸出品は為替円安や需要好調に伴う油井用鋼管等の値上りから、また輸入品も為替円安に加え、原料炭の値上りもあって、それぞれ+1.7%、+1.9%の上昇となった。

用途別にみると、素原材料は為替円安から+1.7%の上昇となったほか、中間品も、製品原材料、建設材料が下落したものの、燃料・動力がC重油を中心に値上りしたため、+0.2%の小幅上昇となった。この間、完成品は、豚肉、鶏卵等の消費財が値上りしたものの、資本財が微落となったため、+0.1%と引続き落ち着いた動きとなった。

## 卸売物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

	ウェイト	56年		56年					最近月の 前月比
		1~3月 平均	4~6月 平均	2月	3月	4月	5月	6月	
総平均	1,000.0	-0.7	1.1	-0.2	-0	0.5	0.8	0.4	1.1
食料品	140.9	0.3	0.8	0.1	0	0.2	0.7	0.2	3.9
非食料農林産物	18.9	-2.8	-0.7	-1.8	-1.7	1.0	0.4	-0.6	-10.3
繊維製品	62.9	-0.4	0.4	0.4	0.4	-0.1	0.2	0	-1.5
製材・木製品	33.6	-3.9	-0.7	-2.1	-1.7	0.9	1.0	-1.0	-14.1
パルプ・紙・同製品	28.9	-2.8	-1.9	-1.6	-0.4	-0.7	-0.5	-0.2	-7.1
金属素材	12.6	-5.9	5.4	-2.2	1.6	3.1	2.6	0.6	-3.3
鉄鋼	80.7	-1.4	1.7	-0.5	0	0.9	0.8	1.4	0.5
非鉄金属	26.1	-8.7	-0.7	-3.1	-0.2	1.0	-0.6	-0.2	-11.8
金属製品	37.0	-0.4	-0.5	-0.3	-0.2	-0.2	0	0	0.8
電気機器	73.3	0.3	-0.1	0.1	0	-0.3	0.2	0.3	1.1
輸送用機器	74.0	0.3	1.3	0.2	0.2	0.2	1.4	0.1	3.8
一般・精密機器	95.7	0	0.5	-0.1	0.1	0.5	0.1	-0.1	2.0
化学製品	91.1	-2.1	-0.5	-0.8	-0.4	0	0.2	-0.5	-4.0
石油・石炭・同製品	102.2	0.4	5.4	1.1	0.6	1.5	3.1	2.4	10.9
窯業製品	30.5	0.3	0.1	0	0.1	0.2	-0.2	0	3.0
電力・ガス	25.5	0.1	0.3	-0.3	0.1	0.3	0.2	-0.4	-0.4
雑品目	66.1	1.2	-0.1	-0.2	0	0	0	0	1.6
工業製品	816.4	-1.1	0.7	-0.5	-0.2	0.4	0.7	0.3	0.1
大企業性製品	579.9	-0.9	1.0	-0.5	-0.1	0.4	1.0	0.5	1.4
中小企業性製品	214.6	-0.9	-0.2	-0.5	-0.3	0.1	0.2	-0.2	-2.7
非工業製品	158.1	-0.5	3.3	1.1	0.7	1.1	1.3	1.2	5.7
国内品	801.9	-0.8	0.2	-0.5	-0.2	0.1	0.5	0.1	-0.2
輸出品	94.2	-0.3	4.5	0.9	1.1	1.5	2.0	1.7	5.3
輸入品	103.9	-0.4	5.6	1.2	1.2	2.1	2.4	1.9	6.9

(注) 日本銀行調べ。

(消費者物価——6月<東京都区部、速報>は前月比  
-0.5%の下落)

6月の消費者物価(東京都区部、速報)は、前月比-0.5%の下落となった。これは、除く季節商品が一部公共料金(バス代、診察料)の値上り等から小幅上昇(+0.2%)となったものの、季節商品が野菜の値下り(-17.7%)を主因に下落(-7.5%)したことによるもの。

なお、前年同月比では、+4.3%と前月(+5.0%)をさらに下回り、54年10月(+4.2%)以来1年8か月ぶりに4%台に低下した。

◇経常収支(貿易収支季節調整後)は2か月連続の  
黒字

5月の国際収支は、貿易収支が輸出の増勢鈍化から黒字幅を縮小(856百万ドル、前月同1,517百万ドル)したうえ、貿易外収支も投資収益の悪化を主因に赤字幅を拡大したため、経常収支では277百万ドルの赤字と3か月ぶりの赤字に転じた。もっとも、貿易収支季節調整後のベースでは、311百万ドルの黒字と前月に引続き黒字を記録した。この間、長期資本収支は、対外証券投資が前月に続き高水準の流出超となったことに加え、対内証券投資も小幅流入超にとどまったことからネット

## 消費者物価指数の推移

(前月(期)比騰落率・%)

		ウエイト	56年		56年			最近月の 前年 同月比
			1~3月 平均	4~6月 平均	4月	5月	6月	
東 京	総合	100.0	1.3	* 1.1	0.3	0.8	*- 0.5	* 4.3
	季節商品を除く総合	91.9	0.1	* 1.6	0.4	1.3	* 0.2	* 3.8
	(季節商品)	( 8.1)	( 14.3)	*(- 3.3)	( 0.4)	(- 4.3)	*(- 7.5)	*(- 11.5)
	食料	40.1	3.9	*- 0.1	0	- 0.5	*- 1.5	* 5.9
	住居	11.1	0.4	1.0	0.5	0.4	0.7	2.7
全 国	光熱	4.2	- 0.1	0.2	0	0.2	0.2	0.6
	被服	12.4	- 2.5	1.8	- 1.5	4.4	- 1.3	2.7
	雑費	32.2	0.5	* 2.6	1.4	1.4	* 0.4	* 4.5
	総合	100.0	1.1	...	0.8	1.0	...	5.4
特 殊 分 類	季節商品を除く総合	91.7	0.1	...	0.9	1.4	...	4.7
	(季節商品)	( 8.3)	( 11.2)	( ...)	( 0.7)	(- 3.0)	( ...)	( 12.6)
	農水畜産物	16.3	7.1	...	- 0.5	- 2.4	...	8.7
	工業製品	46.6	- 0.8	...	0.6	2.5	...	4.0
	うち大企業性製品	21.4	0.1	...	0.2	1.7	...	2.5
	中小企業性製品	25.2	- 1.4	...	0.9	3.2	...	5.2
	サービス	33.6	0.8	...	1.5	1.0	...	4.7

(注) 1. 総理府統計局調べ。  
2. \*は速報。

では724百万ドルの流出超となり、総合収支では1,172百万ドルの赤字となった(前月同2,443百万ドル)。

なお、5月末の外貨準備高は27,735百万ドルとなり、14か月連続の増加を記録した(前月末比+391百万ドル)。

## (輸出—減少)

5月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は-2.9%と前月増加(+3.7%)のあと再び減少した。品目別(通関・ドルベース)には、船舶、鉄鋼、テープレコーダーが増加したものの、自動車は欧米向け自粛の影響もあって落込んだほか、化学製品、合繊糸等も前月増加の反動などから減少し

た。

なお、6月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は、前月増加のあと-1.5%と減少した。品目別には、繊維製品、鉄鋼、自動車が増加した一方、化学製品、電気機械が減少した。

## (輸入—増加)

5月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は、+0.5%と前2か月減少のあと増加した。品目別(通関・ドルベース)にみると、原油がイラン原油の入着増もあってかなり増加したものの、砂糖、小麦等の食料品が大幅に落込み、また繊維原料等の原料品や機械(航空機等)も前月に続き減少した。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	55年		56年	56年			前年同月
	7～9月	10～12月	1～3月	3月	*4月	*5月	
經常収支	△ 1,011	608	△ 2,076	777	474	△ 277	△ 1,861
貿易収支	2,259	3,759	2,048	2,078	1,517	856	△ 665
輸出	32,663	36,514	34,924	13,715	12,622	12,192	10,272
輸入	30,404	32,755	32,876	11,637	11,105	11,336	10,937
貿易外収支	△ 2,968	△ 2,810	△ 3,580	△ 987	△ 962	△ 1,047	△ 1,032
移転収支	△ 302	△ 341	△ 544	△ 314	△ 81	△ 86	△ 164
長期資本収支	2,092	△ 445	2,592	402	△ 3,188	△ 724	1,300
本邦資本	△ 3,694	△ 3,309	△ 4,517	△ 2,342	△ 1,262	△ 1,270	△ 147
外国資本	5,786	2,864	7,109	2,744	△ 1,926	546	1,447
基礎的収支	1,081 ( 243)	163 ( △ 669)	516 ( 1,870)	1,179 ( 65)	△ 2,714 ( △ 2,361)	△ 1,001 ( △ 413)	△ 561 ( 65)
短期資本収支	977	1,388	904	428	303	192	124
誤差脱漏	69	△ 879	1,004	209	△ 32	△ 363	190
総合収支	2,147	672	2,424	1,816	△ 2,443	△ 1,172	△ 247
金融勘定	2,147	672	2,424	1,816	△ 2,443	△ 1,172	△ 247
外貨準備増減	1,126	1,464	1,788	335	324	391	2,489
その他	1,021	△ 792	636	1,481	△ 2,767	△ 1,563	△ 2,736
外貨準備高	23,768	25,232	27,020	27,020	27,344	27,735	21,404
為銀対外ポジション	△ 32,006	△ 32,816	△ 32,625	△ 32,625	△ 35,279	△ 36,495	△ 32,401

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。  
 4. \*印は暫定。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出 信用状
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	
55年 7～9月平均	10,689 (+ 3.2)	10,215 (- 4.1)	474	10,967 (+ 3.5)	11,536 (- 4.4)	7,588 (+ 5.2)
10～12 "	11,547 (+ 8.0)	10,572 (+ 3.5)	975	11,898 (+ 8.5)	11,972 (+ 3.8)	7,726 (+ 1.8)
56年 1～3月平均	12,444 (+ 7.8)	11,310 (+ 7.0)	1,134	12,607 (+ 6.0)	12,446 (+ 4.0)	8,525 (+ 10.4)
56年 2月	12,535 (+ 1.1)	11,505 (+ 4.7)	1,030	12,664 (- 0.8)	12,516 (+ 1.8)	8,979 (+ 9.9)
3 "	12,395 (- 1.1)	11,431 (- 0.6)	964	12,391 (- 2.2)	12,531 (+ 0.1)	8,428 (- 6.1)
* 4 "	12,855 (+ 3.7)	10,985 (- 3.9)	1,870	13,179 (+ 6.4)	12,381 (- 1.2)	8,332 (- 1.1)
* 5 "	12,482 (- 2.9)	11,038 (+ 0.5)	1,444	12,861 (- 2.4)	12,095 (- 2.3)	8,406 (+ 0.9)

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。  
 2. 輸出信用状接受高は特殊大口を除く。  
 3. \*印は暫定。